

塩川ダムについて

塩川は、奥秩父山系の金峰山に源を発し、須玉川を合わせて、釜無川に合流する1級河川です。

河川の勾配が急峻なため、たびたび洪水の被害を受けてきました。

県は、河川改修工事を行ってきましたが、塩川沿岸は、耕地と住宅が密集しているため、河道拡幅による再改修は非常に困難であり、工事費も莫大となることから、ダムによる洪水防御の方法が最も経済的と考えられ計画されました。

また、茅ヶ岳山麓は、かんがい用水には恵まれず農業の発展がはばまれてきました。さらに、藤崎市・北杜市・甲斐市の水道用水は、近年人口集中や産業経済の発展により、水道水の需要は急激に増加しています。

このため多目的ダムを建設し、洪水調節と合わせてこの地域にかんがい用水と水道水を供給し、ダムからの放流による水力発電も行い、水資源の有効利用を図っています。

ダム湖の広さ 43万 m^2

ダムの長さ 225m

ダムの高さ 79m

ダムにたまる水量 1,150万 m^3

ダムに使われたコンクリートの量 38.8万 m^3

左岸遮水壁(リップラップ)面積 約14,000 m^2



ダムの大きさは、東京ドーム(46,700 m^2)の9.2倍。ダムの高さは、県庁本館(24.0m)の3.3倍。ダムにたまる水量は、県庁本館(31,000 m^3)を入れ物にすると371杯分になります。



塩川ダムの果たす役割

① 水害から守ります

大雨が降って、洪水になったときに、大量の水がいつべんに流れないように、ダムに貯めてから安全な量の水を計画的に放流し、水害を防ぎます。

② いつも川に水が流れるようにします

塩川の水は、古くから流域にある田畑のかんがい用水などに利用されています。このような用水の補給や河川の環境を守るために、ダムに貯めた水を計画的に流していつも一定の水が川に流れるようにします。

③ かんがい用水の供給

茅ヶ岳山麓地区の農地にかんがい用水を供給します。

④ 暮らしに必要な水道用水を新たに生み出します

川に流れる水が少なくなったとき、塩川ダムに貯えた水を藤崎市・北杜市・甲斐市に計画的に流し、暮らしに必要な水を新たに生み出します。その量は最大17,000 m^3 /日となります。

⑤ 電気をつくります

塩川ダムの機能は水の流れをコントロールするだけでなく、水の力を利用して電気もつくります。発電所では、最大出力1,100kwの発電を行います。

塩川ダムの管理設備



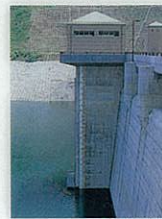
●管理所全景



●操作室



●左岸遮水壁



●水位標



●常用洪水吐